



【写真解説】①全身全霊を注ぎ、人形を操る池上喜雄さん。人形に魂を宿す。②コピスみよしでの公演。黒子に徹して人形を引き立てる。③鋭い目で稽古にのぞむ中学生の谷澤啓祐さん。三芳中での郷土芸能教室を観て「伝統芸能に関わりたい」決意。④色気を表現。熟練の技だ。⑤人形の指先まで神経を通わす池上勇さん。⑥親子で楽しめる三芳町中央図書館で公演。⑦車人形に使用する用具と手作りの衣装。手作業で補修を丁寧に行う。⑧旧池上家古民家でチェロと異色のコラボ。和と洋を取り入れた斬新な試みを実施。⑨ロク口車に腰掛け、足を指でつまみ演じる。浄瑠璃人形と異なり一人で演じられることが特徴。

①熊襲討伐を終え、見得を切る小碓命。②マレーシアのショッピングモールで行われた初の海外公演。現地の人たちは思わず足を止め見入った。③海外公演に向けた稽古の様子。④⑤⑥神楽面をつけ、熊襲建を演じる池上勇さん。⑦場を清める巫女舞い。⑧女装し熊襲建を欺く小碓命⑨代々受け継がれてきた、神楽面を並べる元締めの前田益夫さん。

い、故郷の芸能を守り続け、後世に伝えていきたいという「魂」がそこにはありました。

そして、今。竹間沢車人形は不死鳥のごとく復活し、竹間沢の里神楽も資料館まつりでの夜神楽公演や各地の神社で奉納を行い、観る人を魅了し続けています。その背景には、受け継がれてきた「魂」を抱き、魂を宿して演じる人の想

今からおよそ160年前、竹間沢の前田家では里神楽が行われていたと言われています。その後、運命的な出会いにより、前田家では車人形が演じられるようになりました。昔の娯楽と言えば歌舞伎や浄瑠璃といった伝統芸能が主流。竹間沢車人形も各地で巡業を行うほどでしたが、大正時代に衰退。一度は完全に途絶えてしまいました。

# 魂宿る 伝統芸能

前田家に伝わる2つの伝統芸能。その歴史と背景にあるものとは――。

